

国立極地研究所プロジェクト研究一覧

番号	研究課題名	研究目的	代表者・連絡先
KP-1	<p>極地の過去から「地球システム」のメカニズムに迫る</p> <p>－ 第四紀の極地環境・大気組成変動の高精度・高時間分解能復元－</p>	<p>本研究では、南極ドームふじ深層氷床コアおよびグリーンランド NEEM・NGRIP 深層氷床コアの解析により第四紀後期における南北極域の気候変動や大気中の温室効果気体変動の時系列を得ること、また過去の南極氷床変動を精密に復元することにより、地球の古環境・古気候に関する知識と理解を深めることを目的としている。研究のアプローチとしては、氷床コアの分析、特にイオン・ダスト・同位体の分析や、氷河堆積物試料に対するルミネッセンス年代や C-14 年代測定などの絶対年代測定を土台とする。さらには、国立極地研究所アイスコアセンターが保持する各種装置やノウハウなどを用いる。アイスコア分析や雪氷試料分析、絶対年代測定などについての基礎をマスターしている研究者や、新たな手法を用いて意欲的に研究をすすめる研究者が望ましい。</p>	<p>本山 秀明 教授</p> <p>042-512-0680</p> <p>motoyama@nipr.ac.jp</p>
KP-5	<p>太陽風エネルギーの磁気圏流入に対する電離圏応答の南北極域共役性の研究</p>	<p>本研究では、宙空圏研究グループが南極域、北極域で進めている、大型短波レーダー、無人磁力計、オーロラ光学観測網など複合的な両極広域ネットワーク観測によって得られたデータを用いて、オーロラ現象の南北共役性やそれに関連する太陽風－磁気圏－電離圏現象の総合的な解析研究を行う。</p>	<p>山岸久雄 教授</p> <p>042-512-0657</p> <p>yamagisi@nipr.ac.jp</p>
KP-8	<p>環境変動に対する極域生物の生態的応答プロセスの研究</p>	<p>本研究では、南極陸上域を拠点とした動植物調査によって得られたデータから、極域生物の環境変動に対する生態的応答プロセスを明らかにすることを目的とする。極地研究所で所有している既存の海洋大型動物の行動データの解析を進め、環境変動に対する生態的応答プロセス解明に関わる研究を行う。</p>	<p>伊村 智 教授</p> <p>042-512-0737</p> <p>imura@nipr.ac.jp</p>